

未来開花トーク

県民のより良い暮らしを支えるため、日々果敢に挑戦する先輩たち。彼らはどんな想いで未来を見つめているのでしょうか。3人の先輩が熱く語り合いました。



経済商工観光部
国際政策課
国際政策班
なかがわ だいすけ
中川 大輔
平成23年度採用



保健福祉部
子育て社会推進課
企画推進班
ひよし ともこ
引地 富友子
令和元年度採用



経済商工観光部
雇用対策課
雇用推進班
おがた ゆい
尾形 唯
平成25年度採用

「ともにつくる、宮城の新しい未来の形」 「新・宮城の将来ビジョン」

「新・宮城の将来ビジョン」に掲げた将来像の実現に向け、様々な事業がスタートしましたが、どのような事業を担当されていますか？

引地 私の所属する子育て社会推進課では児童福祉施策の推進や保育行政、少子化対策などに関する事業を行っています。その中でも、私は結婚支援や児童の健全育成といった分野を担当していて、特に令和3年度から始まった「みやぎ結婚支援センター『みやマリ!』」という、AIマッチングシステムを活用し、結婚を希望する方々を支援する事業に力を入れて取り組んでいます。

尾形 私の所属する雇用対策課でも令和3年度から新たに「みやぎ人財活躍推進プロジェクト」という事業がスタートしました。これは、多様な人材が活躍でき、良質な雇用を生み出し続けられる環境づくりを、求人・求職側双方の立場から推進することを目的としたものです。私はこのプロジェクトの担当として、子育てなど様々な事情を抱える方々でも気軽に足を運び、就職相談を行うことができるように、セミナーの開催などの施策を企画しています。

中川 私は、県の国際関連施策の方向性を定める第5期みやぎ国際戦略プランの策定に関わっています。所属する国際政策課では



海外との交流のほか、外国人と日本人が地域でともに暮らす多文化共生社会の推進や外国人材の受け入れ促進のため、外国人留学生と県内企業とのマッチングなどにも力を入れています。



「一事業を進める中で印象に残ったことはありますか？」

引地 入庁3年目で「みやマリ!」の設立という大きな仕事を任せていただいたことです。プレッシャーもかなり大きかったのですが、上司や先輩方に支えていただきながら、自分の力で何かを作り上げるというワクワク感と、達成感を強く感じました。

尾形 自分の考えたことが、誰かの役に立ち、その人の生活や考え方に変化を与えた実感できた時にやりがいを感じます。また、雇用情勢は経済状況に連動しているため、常に生きた情報を持っていないと企業の方との会話も弾みません。トレンドの話についていけるよう情報収集に努めてからは、相手知らない情報を伝えることもできるようになり、新しい知識を身に付けることを楽しめるようになりました。

中川 計画の策定に当たり、県全体の政策を見渡す機会を得て、国の政策や海外の統計データなども調べる中で「新・宮城の将来ビジョン」でも課題としている人口減少と少子高齢化への危機感を改めて感じました。

対策を考える上では、国内だけでなく海外にも目を向ける必要があると思いました。また、この計画策定の業務を経験したことで、物事を時間的・空間的に俯瞰して考える視点が身に付いたと思います。

「自分の仕事が皆の笑顔になると信じて 未知の未来へ今、駆け出す」

「これからどういったことに取り組んでいきたいと思いますか？」

引地 結婚・妊娠・出産・子育てについて切れ目のない支援を充実させる、総合的な少子化対策を更に推進していきたいと考えています。そのために、今、取り組みを進めている結婚支援事業と、これまで宮城県として取り組んできた子育て支援事業を連携させることが必要だと感じています。宮城で結婚したい、子どもを育てたいという方々の希望を叶え、結婚後も安心して子どもを育てることができる社会づくりに取り組んでいきたいです。

尾形 私が関わるプロジェクトでは潜在的な労働力の掘り起こしとともに、働きやすい職場環境の整備も推進しています。これからも宮城県が発展し続けていくためには若年層の活躍が不可欠ですので、そのためには若者に地元企業を深く知ってもらう機会を増やすとともに、企業が若者の持つ価値観への理解を深められる機会を増やしていきたいと考えています。

中川 国内に限らず長期的には生産年齢人口が減少し、労働力確保の競争は激化していくと思います。若年層の活躍という話もありましたが、様々な人材が活躍できる環境が、宮城県には求められているように感じます。自分の担当する分野で言えば、外国人の就

労を支援し、高度な能力を発揮できるように後押しすることなどが考えられます。

「誰もが働きやすい環境づくりが宮城県には求められているということでしょうか。」

中川 そうですね。宮城県で働きたいと、多くの人には選ばれる必要があると思います。そのためには働く環境だけでなく、住みやすい地域であるということも大切です。外国の方への日本語教育体制を考える中で、地域において外国の方と住民との間で顔が見える関係を作っていくことの重要性を感じました。コミュニケーションが取りやすいからこそ住みやすい。その点も支援する必要があると考えます。

引地 働き続ける、住み続けるイメージを考える時にも、それぞれの環境を「いいな」と思ってもらわないと難しいですよね。

尾形 できることから制度や環境を変えていって、たくさんの人に選ばれる宮城県を目指したいですね。

「宮城県職員を目指している人にメッセージをお願いします。」

引地 私は、この宮城県をより良くする職業である県職員として働いていることを誇りに思っています。県民の方々のためにこんなことがしたい、宮城県をもっと良くしたいという気持ちは働く原動力となります。宮城県への想いを大切に、適度に息抜きしつつ、試験勉強を頑張ってください! 皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

尾形 多岐に渡る仕事を通じて、多様な県民ニーズを知ることができます。県民生活の向上へのプロセスは様々だからこそ、常に考えを巡らせ、実行に移していけることが県職員の仕事の楽しさの一つだと思います。自由な発想力と創造力により、宮城県の魅力を多くの人に伝えてみませんか。

中川 自分自身の能力を発揮して宮城県を良くする方法は様々あると思いますが、なぜ県職員を選ぶのかということをよく考えていると入庁後も軸を持って仕事ができると思います。ぜひ地域のことに関心を持ち、一人の県民としてどのように考えるか、という意識を大切にしてください。



未来を架ける取り組み

富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

県内産業の持続的な成長促進に向けて、新産業の創出やイノベーションの促進、観光振興、農林水産業の国内外への展開、若者の県内定着、産業人材の育成などに取り組みます。



みやぎ人財活躍支援センター(みやぎシゴトサポーター気仙沼)外観

社会全体で支える宮城の子ども・子育て

子ども・子育ての取り組みを強化するため、政策推進の新たな柱として掲げています。社会全体で子育て世代を支え、子どもたちが夢や自分らしい生き方を実現できるよう、総合的な少子化対策や教育環境の充実などに取り組みます。



誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

安全安心に暮らせる持続可能な地域社会の形成を目指し、移住・定住・関係人口の増加や地域活性化に向けた取り組みを行い、心身の健康づくりや医療・介護サービスの体制整備などに取り組みます。



外国人材マッチング支援事業の様子

強靱で自然と調和した県土づくり

自然災害が大規模化・多様化する中、これら自然災害への対策強化や脱炭素社会の実現に向けた取り組みの促進、豊かな自然環境の保全・再生、社会資本の整備・維持などに取り組みます。

